
シャント管理

～シャント音の録音を試みて～

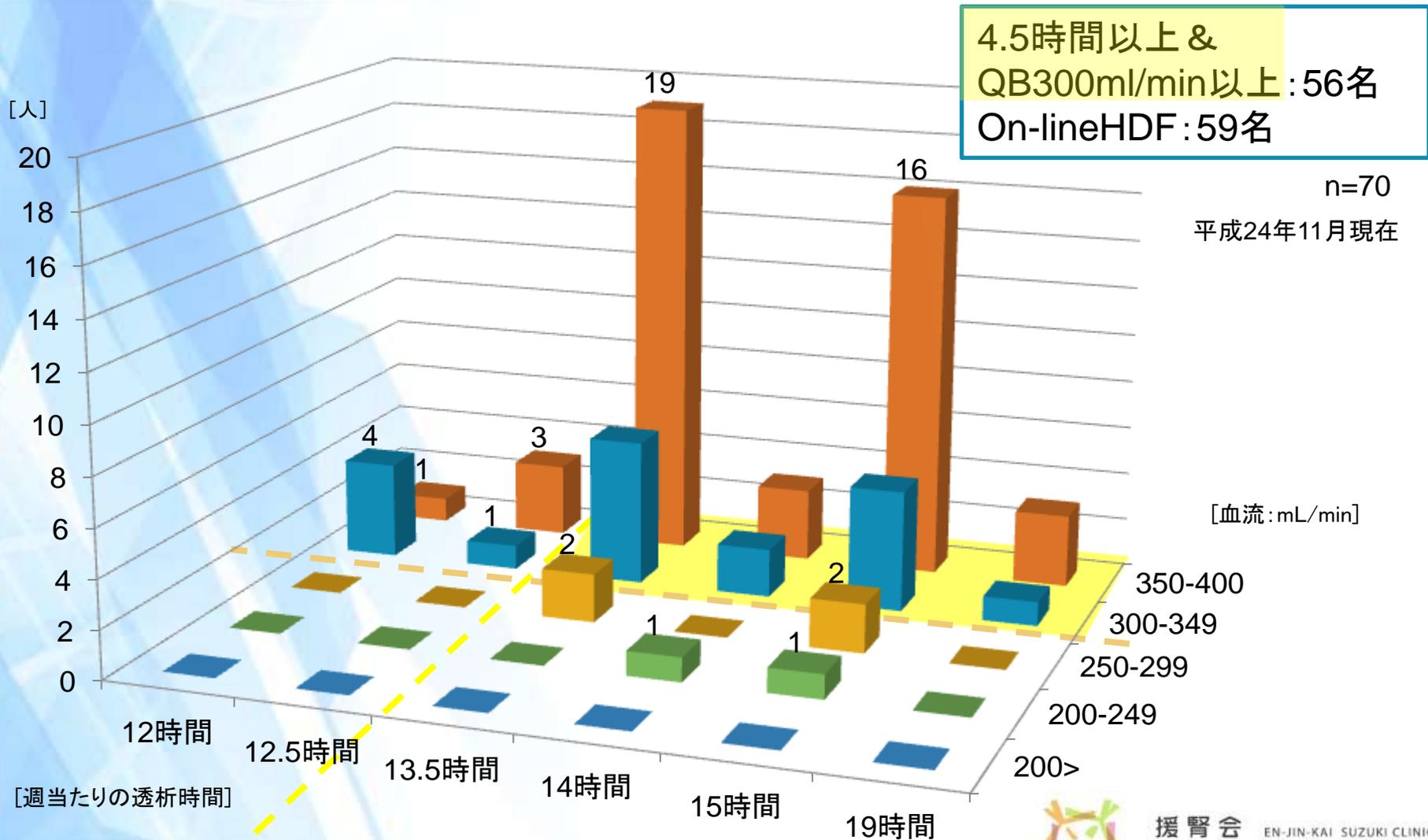
(医)援腎会すずきクリニック

○入谷麻祐子、萩原喜代美、二階堂三樹夫、鈴木翔太、
鈴木 一裕



援腎会 EN-JIN-KAI SUZUKI CLINIC
すずきクリニック

【当院の治療状況】



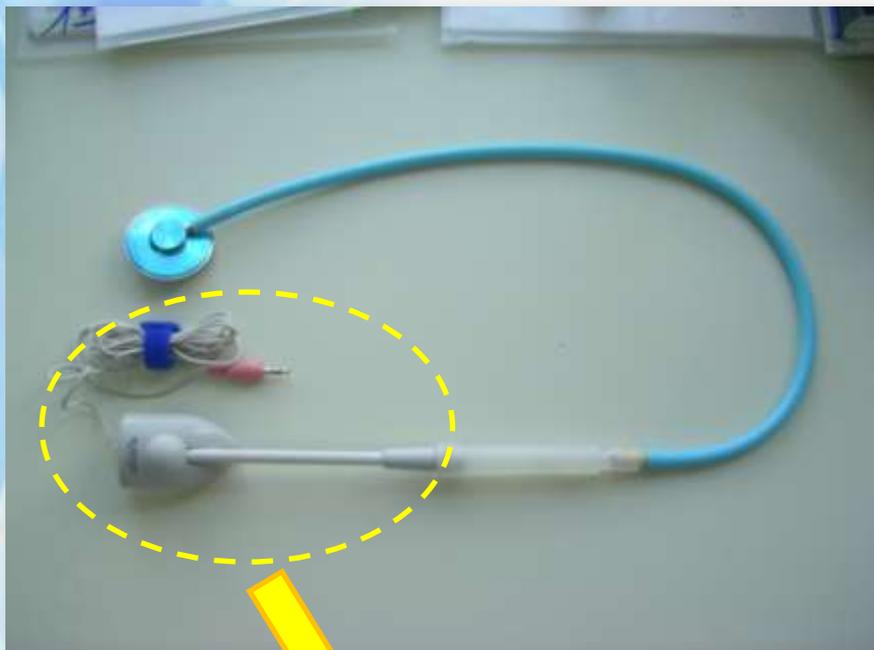
【目的】

- シャント音は、それを聞いたスタッフの感覚で、異常と判断するか迷うことがある。
- そこで、画像のようにシャント音もスタッフ間で共有出来ないかと、簡単な録音方法を試みたので報告する。

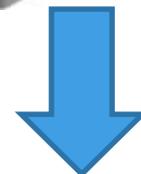
【方法】

- 気になる患者のシャント音を録音し、パソコンにて確認。
- 評価方法は、音声解析フリーソフトにて、画像と周波数から評価・検討した。
- 狭窄音が確認できた患者は、VAIVT治療前後で評価した。
- 患者にも自分のシャント音を聞いてもらい、シャント管理について説明した。

【装置】



マイク端子に接続



音声ファイルをPCに保存

※直接PCに接続し、RECも可能

【症例1】

40代男性 DM

透析歴 2年4ヶ月

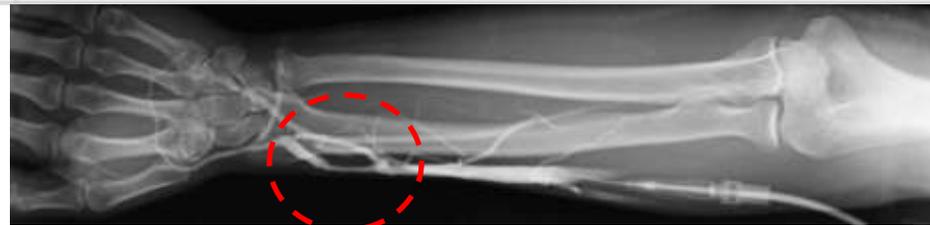
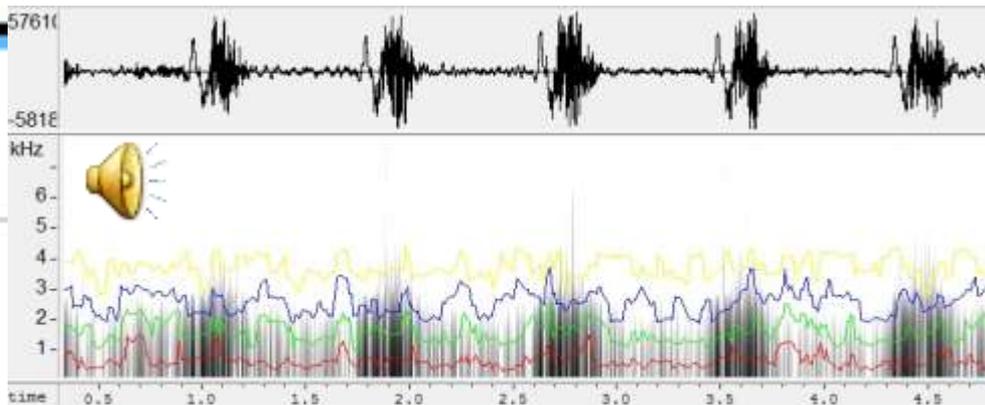
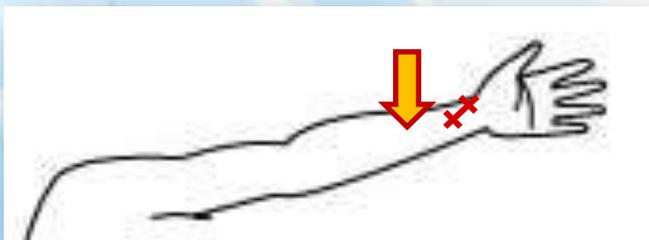
シャント部位 左前腕

血流量 400mL/min

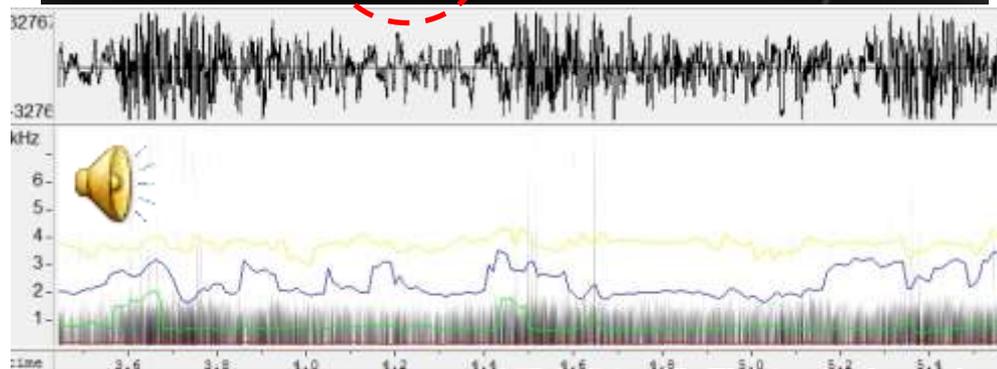
PTA経過歴
H22.6: シャント造設
H22.11
H23.3月, 6月, 10月
H24.1月, 4月, 8月

Kt/V 1.72 ± 0.07

GNRI 106.0 ± 0.9



PTA後



【症例2】

60代女性 CGN

透析歴 5ヶ月

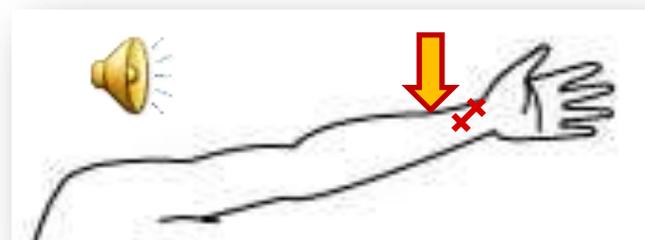
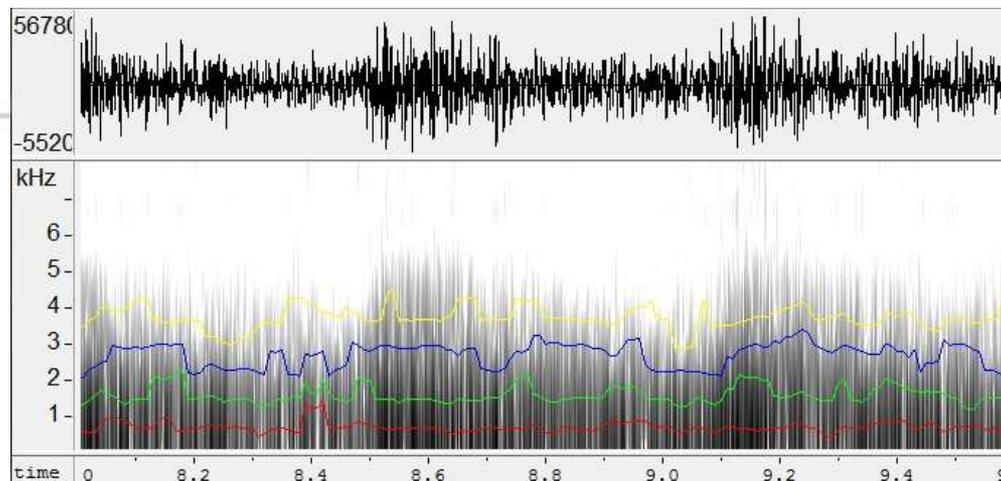
シャント部位 左前腕

血流量 300ml/min

PTA経過歴 H24.5:シャント結紮
H24.6:PTA

Kt/V 2.34 ± 0.19

GNRI 90.8 ± 0.2



透析後に狭窄音確認するも、造影検査にて有意な狭窄なく様子観察とした。



【結果】

- スタッフ間で評価のばらつきがでた。狭窄の疑われる患者は医師と相談しシャントエコー・造影検査にて再確認した。
- 普段シャント音の確認が出来ない高齢者からも「自分のシャント音を確認できる」と好評だった。
- 症例2のように、シャント音に異常があっても狭窄がない場合もある。



【考察】

- 手軽にどのスタッフもシャント音の録音ができ、尚かつスタッフ間で情報が共有できた。
- 患者とも情報が共有できることから、シャント管理の指導において効果的だった。
- 本法を行うことで、スタッフや患者のシャント管理への関心が高まり、シャントトラブルを未然に回避していく事につながる。

【結語】

- 高額な録音装置を有さなくても聴診器改造による録音評価は、シャント管理において有用であった。

